

## 平成28年度第2回那珂市総合開発審議会 会議録

1 日時 平成28年10月26日（水） 午後1時31分から午後4時11分まで

2 場所 那珂市役所本庁舎4階 庁議室

3 出席者

(1) 委員

遠藤実委員、寺門厚委員、古川洋一委員、佐藤哲夫委員、浅川清司副会長、  
砂金祐年会長、有賀絵理委員、鴨志田和枝委員、住谷啓二委員、海野宏幸委員、  
椎名猛博委員、中村健副会長、江尻一彦委員、

(2) 那珂市総合計画策定委員会

委員長（那珂市副市長） 宮本俊美

(3) 事務局

企画部：部長 関根芳則、次長兼政策企画課長 篠原英二

政策企画課：課長補佐（総括） 浅野和好、課長補佐（政策企画グループ長） 篠原広明、  
係長 照沼克美、係長 川勾貴弘

(4) コンサルタント会社

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：まちづくりプランナー 塚田和司

4 欠席者

勝村晃夫委員、眞崎孝昭委員、黒澤昭委員、間宮一委員、神永直美委員、  
小野瀬好良委員、平野聡委員、

5 会議内容

(1) 開会

○事務局（篠原次長） 皆様、改めまして、こんにちは。本日は、大変お忙しい中を第2回の審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

会議に入る前に、事務局から一つご連絡がございます。ご案内のとおり、本日、第2回の審議会より、第2次那珂市総合計画の基本構想について、骨子案を皆様にお示しいたしまして、ご審議をしていただくということにしております。そのため、本日付で諮問書を砂金会長の方に提出させていただきました。皆様のお手元には、その写しがあるかと思えます。ご確認いただければと思います。

それでは、ただ今より、平成28年度第2回那珂市総合開発審議会を開催いたします。

開会に当たりまして、砂金会長よりごあいさつをお願いしたいと存じます。

(2) 会長あいさつ

○砂金会長 皆様、こんにちは。第2回目になりましたが、本日もよろしくお願ひします。

議事に先立ちまして、一言ごあいさつさせていただきますが、実は、私は那珂市以外にも日立市でも総合計画の策定の委員をしておりますが、非常に難しい課題に直面して

おりまして、日立市は、人口はもちろん那珂市よりも随分多ございますけども、実は全国で896ある消滅可能性都市の一つとなっております。しかも、人口減少率に関しましては、全国でもトップクラス。非常に厳しい状況に日立市は立たされておりますが、翻ってこの那珂市でございますが、今年の6月に東洋経済が全国の住みよさランキングの2016年バージョンを発表いたしました。全国813都市のうち、40位と非常に上位にランキングされております。ですので、那珂市はおそらく全国の自治体の中でも、稀有な今後も発展の力を秘めた自治体であるということが言えるかと思えます。もちろん、様々な課題はございます。しかしながら、そういった課題を克服し、そして、より良い那珂市としていくために、是非、皆様のお力をお借りしまして、より良い総合計画の骨子を作っていくしたいと思います。

本日はよろしく願いいたします。

### (3) 報告

ア 平成27年度市民アンケート結果の概要について

○事務局（篠原次長） ありがとうございます。

なお、本日、会議の出席でございますが、現在12名でございます。当審議会設置条例第5条の規定によりまして、過半数を超えておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、これからの進行につきましては、設置条例第3条の規定に基づきまして、砂金会長の方にお任せをいたします。よろしく願いいたします。

○議長（砂金会長） はい。それでは早速、次第に従いまして会議を進めてまいりたいと思えます。まず、次第の3になりましょうか。報告の(1)平成27年度市民アンケート結果の概要について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい。それでは改めまして、皆さんこんにちは。説明に入ります前にですね、資料の確認をさせていただきたいと思えます。

本日の資料につきましては、事前に郵送等でお配りしているところがございますけれども、一つずつ申し上げてまいります。まずですね、本日の次第でございます。平成28年度第2回那珂市総合開発審議会次第。次にですね、資料1 平成27年度市民アンケート結果の概要。続きまして、資料の2、市民ワークショップの開催結果について。続きまして、資料の3、まちづくりカフェの開催結果について。続きまして、資料の4、小中学生まちづくり絵画展について。最後になりますが、資料の5、第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）。以上でございます。不足等はございませんでしょうか。

それでは早速、始めのですね、平成27年度市民アンケート結果の概要についてご説明いたします。座って失礼いたします。

市民アンケート結果の概要につきましては、資料の1でございます。市では、市民の皆様のご現状やご意向を把握するためにですね、総合計画を始めとする各種計画の進行管理に役立てるために、毎年2月ごろに市民アンケートを実施してございます。

今年につきましては、1月15日から2月12日に実施いたしまして、20歳以上の市民2,000人にアンケートを送付し、844通の回答がございました。

特に今年は、総合計画の策定年ということもあったことから、アンケートの設問に新

たに「那珂市の現状と将来像について」を加えておりますので、その結果についてご説明したいと思います。

まず、回答者の地区別、年代別の構成比についてでございますけれども、地区別では菅谷地区が最も多く38.86%、年代別では60代が最も多くなっておりまして、60代前半と後半を合わせますと25.83%となっております。

裏面2ページをご覧ください。質問の一つ目でございます、「那珂市は住みやすいまちだと思いますか」という設問でございます。

この設問に対しまして、「住みやすいと思う」「どちらかと言えば住みやすいと思う」を合わせますと、約84%の方が住みやすいと回答しておりまして、先ほど砂金会長の方からもごあいさつにありましたとおり、皆さんもお聞きになったことがあるかと思っておりますけれども、東洋経済新報社の2016年の住みよさランキングで、那珂市は関東第5位、茨城県第3位という調査結果となっております。市民の方もですね、そのまま住みやすいということを感じておりまして、「住みよさ」というのは、那珂市の大変な強みであるということが評価できると思います。

下段のグラフにつきましては、ただ今の設問を年代別にしたグラフでございます。

先ほどの円グラフでは、約84%の方が「住みやすいと思う」「どちらかと言えば住みやすいと思う」としておりましたが、年代別に見ましても、すべての年代で80%を超えている結果となっております。加えまして、60代前半の「住みやすいと思う」という結果につきましては、38.24%となっております。特筆すべき結果であると思えます。

逆に、「住みにくいと思う」「どちらかと言えば住みにくい」が多い年代といたしましては、50代を合計いたしますと14.57%と高くなっているものの、働き盛り、子育て世代の中心といえる40代では、8.4%と低い結果となっております。全体的な結果としましては、総じて那珂市の住みやすさとしては、満足しているものと評価できると思えます。

続きまして3ページをお願いいたします。

質問の二つ目でございます。「市の現状をどのように感じていますか」という質問です。

グラフ中、左側の青色と赤色が「十分」であると感じている人、右側の水色と紫色が「不十分」と感じている人の割合を表しています。

「十分」であるとの回答が高かったのは、52.01%の「買い物などの日常生活の利便性」、次に50.12%の「自然と調和がとれた住環境」が半数以上となっております。ほかから見ると抜き出て高くなっております。ここでも那珂市の利便性や住環境が高く評価され、住みよさにつながっているものと考えられます。

逆に「不十分」であるものとしたしましては、45.5%の「交通の利便性」、また、40.76%の「生活基盤（道路の整備）」となっております。マイカーに頼らざるを得ない地域特性と、その道路整備の状況が不十分であるという結果になってございます。

その下の段にまいりまして、質問の三つ目でございます。「今後のまちづくりにおいて、どのように取り組むべきだとお考えですか」という質問です。

グラフ中、左側の青色と赤色が「優先すべき」と感じている人、右側の水色と

紫色が「優先ではない」と感じている人の割合を表しております。選択肢につきましては、先ほどの市の現状と同じものとなっております。

「優先すべき」の割合が最も高いものとしましては、68.37%の「防災・防犯・交通安全の対策」となっておりまして、割合が高い要因といたしましては、やはり東日本大震災の経験によるものや、近年、日本各地で多発しております地震や風水害などの大規模災害への不安による影響が大きいものと思われま

す。また、2番目に高いものですね、62.32%の「医療・福祉環境のうち医療・健康環境」となっておりますが、その上の「子育て環境」や下の「高齢者・障がい者環境」につきましても、横並びで高い数字となっております。市民の皆様は、健康と福祉に対して、高い優先度を求めているものと整理できると思います。

裏面の4ページをご覧ください。

四つ目の質問でございます。「那珂市が将来どのようなまちであってほしいと思いますか」という質問でございます。

この設問は、各項目の中から三つまで選択可能となっております。グラフにつきましても、その選択率を表しております。この選択率が高い順からいきますと、子育てしやすく子どもが健やかに育つまちを選択した割合が49.88%、防犯・防災体制の整ったまちを選択した人の割合は48.7%、買い物や交通など日常生活が便利なまちを選択した割合は、48.34%という結果となっております。

これら数字の高い項目につきましては、前段の質問の三つ目のところでご説明いたしました、「子育て環境」や「防災・防犯・交通安全の対策」につきましても優先すべきであるという結果と一致するものでございまして、市が目指すべき将来像や重点施策を検討する上で、一つの判断材料になる結果となっております。

また、日常生活の利便性という点では、質問の二つ目のところで、「買い物などの日常生活」につきましても十分であるとされているところではございましたが、「交通の利便性」というものに焦点を当てますと、半数近くの方が不十分であると感じている結果でございましたので、更に充実した施策が必要な分野であると判断できる結果となっております。

なお、下の段の、年代別というものにつきましては、参考としまして、ただ今の結果を年代別に分けたものでございます。以上が市民アンケート結果の概要となります。

那珂市最大の強み、基盤としましては、正に「住みよさ」にあると思います。

この住みよさを更に充実させるためには、自然と調和のとれた住環境の整備や保全、安心・安全なまちづくり、子育て支援や高齢者、障がい者にやさしいまちづくりを更に進めていくべきであるとのアンケート結果であったと評価できると思います。

説明につきましても以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ただ今の説明について、ご質問等がございましたら、挙手をお願いいたします。

はい、古川委員お願いいたします。

○古川委員 質問させていただきます。議会の中でも私、聞いたことがあるんですけど、こういうアンケートをとるときに、必ずクロス集計をしてほしいというお願いをしていると思うんですね。つまり、この回答者が地区別で菅谷が何%、どこどこが何%、年代

別に20歳代が何%と出てますけど。例えば、どこどこ地区の若い方が求めているもの、どこどこ地区のお年寄りが求めているもの、いろいろ答えとしてはあると思うんですよね。ですから、そういうクロス集計をしないと、ただ単に菅谷の40%近い方の答えが多いわけですから、その方が住みよいですよ、交通の利便性が良いですよと言ったからといって、那珂市全体として考えたときに、本当に利便性が良いのかってというような問題になると思うんですよね。ですから、その辺をつかんでいらっしゃるのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。こちらのアンケートの集計につきましては、アンケートをやっているのは、行財政改革推進室というところになりますけれども、こちらの方ですね、クロス集計を行ってございます。

本日は、資料がかなり膨大になってしまうためにですね、一応、クロス集計している部分も、例えば、設問1の年代別というのもクロス集計の一つにはなりますけれども。こういった形でですね、ちょっと細かい資料になりますので、数字を申し上げるのは差し控えますけれども、クロス集計は一応しているということでご理解いただければと思います。

○議長（砂金会長） はい、古川委員、お願いいたします。

○古川委員 はい、分かりました。それでは、これからの話です。最終的には、この総合計画の今日は基本構想のどこまで行くんでしょうけれども、こういうところに、そういうところがきちんと反映されているのかどうかということが、私は大事なのかなというふうに私は思っていますので、この後、意見があったら述べさせていただきます。

ありがとうございます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

はい、中村副会長お願いいたします。

○中村副会長 それでは座ったままで恐縮です。ただ今質問ありました、マクロ的なものですが、私はね、高齢者の立場から見るとね、今何が問題かと。交通ですよ、交通。これは議会中でも話がありましたけれども、主要通りにおいて完全な交通機関を擁していくことがね、肝要ではないかと。

つまりね、これは業者もあることだけでも、これはね、折衝の中で、例えば那珂市の状況で負担はこのくらいするよと、あるいは費用の負担はこうだよと、もう少し突っ込んだね、交渉をしていく必要があるんじゃないかと。

そして、この交通網については、我々、今度あれでしょ、免許証返上したら行くところないよ。何が住みよいだよ。そんな感じるよ。だからね、これはもう少し絞り込んでいただいて、交通につきましては、本当に切実に感じていることだから、是非、配列する必要があるんじゃないかと、こういうふうに思います。

以上です。答弁要りません。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。確かにこの3ページでも、市の現状で最も評価が低いのが交通の利便性になってございますので、これがやはり那珂市の大きな課題になっていると思います。ありがとうございます。

ほかにご質問はいかがでしょうか。はい、寺門委員お願いいたします。

○寺門委員 アンケートの実施方法なんですけれども、20代が7.35%ということで、データ数としては少ないんですよ。もっと言えば、今回は20歳以上の市民の方ということなんですけれども、18歳以上、18歳、19歳、10代の方ですね。この方のやっぱりアンケートもとるべきではないのかなという気がしております。

特に今後のまちづくり、那珂市が将来どのようなまちであってほしいと思いますかという設問についてはですね、より若い方々がどう思っているのかということが非常に重要な、これから総合計画を作る上でソースになりますので。今回はもう実施してしまってますんでですね、その辺の意見をね、どうやって取り入れるのかっていうのが重要なところなんで、どういうふうに考えているか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○議長（砂金会長） はい、事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、お答えいたします。まず、アンケートの発送の中で20代がどのくらいいたかということをお答えしたいと思うんですけども、2,000人のうちですね、255人の20代の方に発送をさせていただきます。その中で、回答があったのが62人ということで、回答率が24.31%でございました。全体で42.2%の回答率でございましたので、20代からの回答が少ないという結果にはなっております。

その上ででございますけれども、18歳、19歳の若い世代の意見を聴くということでございますけれども、この後ご説明いたします、市民ワークショップないし、まちづくりカフェですね、そちらの方で若い方に来ていただいて、ご意見をお聴きしたということもございますが、今後ですね、更にそういった若い世代の意見を聴くということは必要かと考えてございますので、例えば高校生ですとか、大学生ですとか、そういった方を対象にですね、来年度、そういった取り組みができればいいかなということで、今検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（砂金会長） 寺門委員よろしいでしょうか。

○寺門委員 とりあえず、その20代の方、255人中62人、他の年代に比べて回答率低いということですよ。その辺はどう捉えるかも考えておく必要があるんですよ。何で少ないのかという部分もですね。関心が無いのか、それとも全く、なんでしょう、その辺はよく分析しないと分からないんですよ。若い方、我々も議員なんで、政治離れというのは、非常に大変な問題といたしますか、いつも気にするところなんですけれども、この辺はどういうふうに捉えていますか。この少ないというところ。

○議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。先ほど20代の人数を申し上げましたが、一番回答が多かった世代を申し上げますと、70歳以上というのが一番高い回答率でございました。2,000人のうちですね、316の方に発送してございまして、回答が176人です。回答率としましては、55.7%ということになっております。

選挙の投票率なんかもそうだと思うんですけども、やっぱり若い世代の投票率は、なかなか少ないということもありまして、なかなか行政とか政治に関心が無いという部分が一番大きな要因なのかなというふうには考えてございます。

○議長（砂金会長） 私、いろんな市でこのアンケートのお手伝いをさせていただいているんですが、やっぱり20代の回答率は、どこも低いですね。たまに20%切るようなところもございますので、やはり関心が無いというお叱りの言葉もございましたけども、もう一つあるのが、かなり一番忙しい世代でもあったりするわけですよ。まず仕事はかなり忙しくて、なかなかこういったことに時間が割けないといったような声も伺いますので、20代の意見をどう反映するのかというのは、那珂市に限らず、今後の課題かなというふうには思います。ありがとうございました。

#### イ 市民ワークショップの開催結果について

○議長（砂金会長） ほかにご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、特に無ければ、次に移りたいと思います。次第の3の(2)市民ワークショップの開催結果について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、それでは続きまして、市民ワークショップの開催結果につきましてご説明いたします。資料につきましては、資料の2でございます。

始めにですね、参加者の募集方法でございますけれども、日ごろですね、余り市政に参画する機会の少ない市民の意見を聴くという趣旨の下、平成28年の4月1日現在を基準日といたしまして、無作為抽出した20歳以上の市民3,000人に案内文を郵送する方法で行いました。そのうちですね、申し込みがあったのは39人ございまして、当日はですね、33人の方に出席していただきました。

出席者の構成を見てみますと、男性が約76%。年代別ではですね、60代が約43%。地区別ではですね、菅谷地区の出席者の方が約52%という結果でございました。

裏のページ、2ページ目をご覧ください。開催日等でございますけれども、6月19日の日曜日、午後1時30分から午後4時までということで2時間30分の時間を掛けてですね、行ってございます。場所は、中央公民館の1階大会議室でございました。内容としましては、始めにですね、総合計画の概要、これからの総合計画の方向性や那珂市の現状について説明をしまして、その後、参加者を六つのグループに分けて、ワークショップを実施してございます。

具体的には、那珂市の強み、好きなどころであったり、魅力と思っている部分、それと弱み、課題であったり問題意識、そういったものをですね、自由に付せんにご書き出してもらいまして、それを模造紙に貼り付けて、同じような意見を整理した上で、グループごとに発表していただきました。また、他のグループの発表を聞いて感じたことを別の付せんにご書き出してもらいまして、その付箋をですね、ほかのグループの模造紙に貼り付けると。そこから感想をフィードバックするというので、その日の作業を振り返っていただきました。

当日の作業の様子は、写真のとおりでございまして、短時間にもかかわらず、参加された方にはですね、大変熱心に作業をしていただいたところでございます。

実際に各グループから出された意見につきましては、次のページからの別紙のとおりでございます。参加者に自由に書き出していただいたものを、1のコミュニティから最後の4ページ目ですかね、最後の16番、若者・結婚支援の16の施策に分類してまとめた一覧表となっております。

左側の施策から右に、那珂市の強みと弱みの意見、そして、グループの発表を聞いてほかのグループの参加者が感じたことということでまとめてございます。

2 ページ目をご覧くださいと思います。7 の交通基盤・公共交通では、強みも弱みとも多数の意見が出されております。先ほど、中村副会長からも、こちらの交通の部分につきましてご意見を頂いたところでございますけども、強みというところを見てみますと、幹線道路が多く交通の便が良いこと、J R の駅が九つあること、アクセスが良いこと、コミュニティバス、デマンド交通があることなどが挙げられてございます。一方で弱みとしましては、生活道路が整備されていない、公共交通の便が悪い、路線バスがない、東西の道路がない、終電が早い、歩道に雑草がある、通勤ラッシュなどが挙げられております。先ほどの市民アンケートの結果でも、交通の利便性に関しては不十分であるといった結果でございましたが、ワークショップでも同様の意見が挙げられているところでございます。また、強みの意見も多数挙げられておりますので、これらの可能性を活かした施策の展開が今後必要であるということが考えられます。

次に意見が多かったのは、4 ページにまいりまして、13 の観光・物産品でございます。ここでは、弱みの意見というものが多数ございました。名物がない、幅広い年齢層が参加できるイベントがない、飛びぬけた特徴がない、物産販売の集客施設が弱い、宿泊施設がない、PR が下手などの意見が出されております。少数の強みの意見としましては、額田城跡や桜の名所、静峰ふるさと公園だと思っておりますけども、それと大助まつり、菅谷まつりがあるというご意見がありました。観光分野では、数は少ないかも知れませんが、地域資源を生かしたPR を更に進めまして、賑わいの創出を図る必要があると思います。また、特産品につきましては、近年、市でも特産品ブランドの認証化の推進に取り組んでおります。現在、16 の特産品がございまして、今年もですね、産業祭が近々ありますけども、10 の特産品が認証される見込みとなっております。このようにですね、特産品ブランドなどのPR を強化するといった課題があると思います。

1 枚戻っていただきまして、12 産業・雇用の分野につきましても、弱みの意見が多数挙げられております。企業が少ない、雇用がないという意見が大部分を占めておりまして、農家世帯からは後継者がいないといった声がありました。感じたことでは、雇用が十分ではないといった意見も多数ありましたが、隣接市のベッドタウンのままでよいのかといった意見もありまして、市内での雇用の場の確保を望む声もございました。

その上の11 教育・文化も意見が多かった分野となっております。図書館が充実している、利用しやすいなどの強みはあるものの、那珂市の文化とは何か、文化的イベントが少ないなどのご意見がありまして、芸術・文化の振興を図るべきという結果となっております。

1 ページに戻っていただきまして、4 の防災・防犯の分野でございます。市民アンケートの結果で取り組むべきとして優先順位が高かった分野でございますけども、原子力施設への不安や空き家対策への懸念の声がありました。

その下、5 の自然環境ですとか、2 ページ目の6 の生活環境の分野につきましては、市民アンケート結果で自然と調和のとれた住環境や買い物などの日常生活の利便性が「十分である」との回答が多かったように、ワークショップにおきましても、「自然が豊か」「買い物が便利」といった意見が多数出されておきまして、住環境や日常生活の利便

性を評価する結果となっております。

市民ワークショップの意見としましては、総体的に見ると市民アンケートと同様の結果であると思えますが、一方で、産業や雇用、観光・特産品の分野では、弱みの意見が多数挙げられておりまして、これらの分野につきましては、施策の充実・強化を図っていかねばならないと感じているところでございます。

説明につきましては以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ただ今の説明について、何かご質問などがございましたら、挙手をお願いいたします。

はい、江尻委員お願いいたします。

○江尻委員 1ページ目にあります男女別の構成なんですけども、男性が4分の3を占めているというところが気になってまして、いろいろな強み、弱みの意見もやっぱり、男性目線に偏るといふところがあるのではないかなというふう感じたんですけども、その辺は事務局の方でどう感じているのでしょうか。

○議長（砂金会長） 事務局お願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。確かにこのように4分の3が男性という結果になってございます。開催日時をですね、どなたでも参加できるようにということで、日曜日の午後ということで設定いたしましたが、逆にここの部分が仇となってしまいまして、なかなか若い世代であったりとか、女性の方の参加が少なくなってしまうのかなというふう考えているところでございます。

実際、ワークショップにつきましては、男性よりかなというところもあろうかと思えますけども、ワークショップ以外にも様々な形でご意見を頂戴しているところでございますので、これも市民意見の一つということで把握していきたいというふう考えてございます。以上です。

○議長（砂金会長） はい、ありがとうございます。ほかにご質問ございますでしょうか。はい、中村副会長お願いいたします。

○中村副会長 私も勉強不足で恐縮なんですけど。これね、抽出する2,000とか3,000とかいうのは妥当なんですか、これは。何かの、そういう基本的な数字の統計があるんですか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。市民ワークショップは3,000人の抽出ということにしてございますけれども、先ほどの市民アンケートですね、市で全体的にやっているのは2,000人ということになってございます。

統計学上ですね、おおむね那珂市の人口規模としましては、統計学上そのくらいの方を抽出するというので、大体アンケートの結果としては、たくさんの方をやるのと同じ結果が出るという、統計学上ではそういう形になっているということでございます。

○中村副会長 その中でね、最初の2,000人の抽出の中でね、42、3%の回答しかない。そのあとの57、8%については、先ほどから話が出ているけれども、白けてるのか、関心が無いのか、元々まちに対して全然そういう期待感が無いのか、そういうことへの配慮の仕方というのは特に無いんですか。

○議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。なかなか行政、那珂市のまち

づくりに対して直接的に関心を持っていただくということは、苦慮している部分ではございます。市から発信する媒体としましては、広報紙であったりとか、最近ではフェイスブック、ツイッターなどですね、若者も見られる環境。あとはメールマガジンもですね、今登録すれば見られる形をとってございまして、そこからどんどん情報を発信しましてですね、行政の行っていることに関心を持っていただくというのも一つの方法ということで、今取り組んでいるところでございますけども、具体的にこれをすれば若者世代に関心を持っていただけるというところではですね、なかなか苦慮しているというのが実情でございます。

- 中村副会長 あかね、やっぱり今話聞いてもね、そういった現代的な用語がかなり出てくるんだけど、私ら分かんないよ。メールマガジンとかね。そんなこと言われたって、ちんぷんかんぷんだよ。そういうことに対してもね、行政に言いたいのは、やればいいんだと、そういうことじゃない。どうしたら実質、効能が出るのか、効率が上がるかっていうね、配慮をやっていただければありがたい。広報紙だってそうだよ、広報紙何%が読むと思ってるの。半分読まないよ、あんなの。そういう実態が有って無いものに対して期待しては、それは空の期待になっちゃうんだな。

だから、そういう意味で、ひとつ配慮してもらいたいと思うと同時にね、これ観光とか、まちづくりは、今はもう観光とかさ、やっぱりその生活基盤の整備だな、そしたらね、まちづくりの中でね、行政はね、無いものは作らなければならないんですよ。有るものは活かすんですよ。その有るものを活かすということに本質を、重点を置いてもらいたい。一つは歴史、文化の例を挙げると、額田の「たっつあい」。最たるものですよ、これ文化の。全然手を付けていない。それを行政としてどういうふうに救済していくかということも、これは特に難しいことではない。高齢者に対して、そういうものに対して声掛けをすれば、かなりの人が乗ってくるよ。そうすることによって、人の集まり、コミュニティができる。そういうものをやっていただきたい。

ただ単に一つの問題だけで、ぽーんと論じてもね、なかなかいかないから、それは整合性のあるものを考えていく必要がある。こういうふう思うんですね。私、能力があるわけじゃないから恐縮の至りだけど、そう思ってますので、せっかくの機会なんで質問させてもらいました。そういうことをひとつお願いしたいな。以上です。

- 議長（砂金会長） ありがとうございます。

はい、鴨志田委員、よろしいですか。

- 鴨志田委員 2枚目の3番、男女共同参画というところなんですけど、ここに弱みということで、女性の参加が少な過ぎると出ていますが、この市民ワークショップに参加した女性が少ないということなんでしょうね、これはね。

私、女性ネットワークなかの構成団体に入っているものですから、これちょっと言わしていただければ、女性ネットワークなかでは、男女共同参画の啓蒙ということで、いろいろ事業、イベントをやっているんですね。そちらから言わせれば、いろいろやってもほとんどが女性で、男性が1割か2割くらいしか参加していないんですね。もっと男性の参加が多いといいですねというのがいつもの反省なんです。こういうようなワークショップになると女性が少ないというのは、ちょっと私もがっかりしたんですけども、これから男女共同参画ということで、市でイベントなんかやるときには、できるだけ啓

蒙るようにPRの方もやっていただきたいと思うんですけども。これは、女性の参加が少な過ぎるというのは、ワークショップの時ですよ。

○事務局（篠原課長補佐） はい。そのとおりでございます。

○議長（砂金会長） 鴨志田委員、よろしいですか。

○鴨志田委員 これは少ないですけども、普通は、普段やっていることについては、女性は多く参加していますということが言いたいもんですから、すみません。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。では、海野委員お願いいたします。

○海野委員 今回のワークショップ見ますと3,000人に対して39人。1プロちょっと、1.3プロくらいの参加率。これはある程度、市の行政側では、想定した参加人数というのは、どれくらいを予定しておりました。実質は、これも1プロちょっとですけども。

○議長（砂金会長） いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） 3,000人に送りまして1%、30人という想定をしてございました。

○海野委員 じゃあ、一応、予定の人数という感じなんですか。

○事務局（篠原課長補佐） 結果的には、そういうことになります。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。実際、ちょっとこれ正直、私、結構集まったというのが正直な印象でして、1%以上集まるってなかなかないことだと思います。

それから3,000人というのは、大体誤差が0.7、0.8%くらいです。例えば、全国視聴率調査、テレビの視聴率調査というのは、母集団が1,500万世帯に対して600世帯しか調査してないです。それでも、大体誤差が2%くらいで収まってますので、那珂市の人口規模で3,000人は、これは十分な数かなというふうに統計学的には思われます。

ほかにいかがでしょうか。はい。では、有賀委員お願いいたします。

○有賀委員 何点かあるんですけども。まず、先ほどのアンケートにもありましたが、今回のワークショップの7番の交通基盤・公共交通の弱みの下から2番目のところに、やはり公共交通が不便、年を取ったとき心配ってあるんですね。先ほど、副会長さんもおっしゃってたんですけども、やはり私、車椅子ユーザーの立場で話をさせていただきますと、公共交通機関に乗れる物が無いのが残念なんですね。だから今後、その辺のところを公共交通機関の利便性を高めるっていうところをもう少し検討する必要があるのではないかなと思います。

あと、先ほどから若者、若者というお話、若者がなぜ参加をしないんだというお話がありますけれども、実は若者だけではなくて、社会的困難者、社会的弱者、いわゆる障がい者や身体の不自由な高齢者の人も、もしかしたらこの抽出された中にいたかもしれない。でも、参加したくても参加できない状況があったかもしれないんですよ。そうなったときに今後、ワークショップやまちづくりカフェはどうなるのかという話につながりますけども、例えば、ワークショップやまちづくりカフェの中に、手紙を送った中に、もし参加できない方は意見を書いて送ってくださいます的なFAXとか、返信用封筒を入れてあげるみたいな方法もあつたら、更に伸びたんではないかなと考えました。

以上です。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。こういった調査を補完する意味での具体的ご提案をいただきましたけども、事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。まず1点目の公共交通の部分でございます。年を取ったとき不安、心配であるというご意見でございますけども、こちらですね、市民アンケートにも出てきた、同じように出てきた内容かと思えます。市の方ではですね、今、ひまわりバス、コミュニティバスですね、それとデマンドタクシーということで市の施策としてはなっておりますけども、こちらですね、検討を進めていきたいなというふうに思います。

またですね、抽出して案内を送るときの方法ですね、参加できない場合には意見を書いてくださいということにつきましては、今後こういった機会があった場合にですね、参考にさせていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（砂金会長） 有賀委員よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

ほかにご質問ございますでしょうか。はい、中村副会長お願いいたします。

○中村副会長 今、有賀先生が言われましたけど、弱者を救済するためのね、一つの施策。これ今、弱者を含んでまちづくりをするわけですよ。ですから今ね、有賀先生言ったけど、弱者がもし選ばれたらば、その返信をできるように配慮していくこと、これが行政だよ。だから、やったからいいんだということではなくて、そこまで配慮することが必要ではないかなと、こういうふうに思いますね。

それから交通につきましては、正にそのとおり、先ほども言いましたけども、これね、行政側、議会議員が3人もいるんだけど、一生懸命がんばってもらってね、一つのルート、交通をね、確立してもらおう。そういうことを一つの文書で、きれいな言を言うんじゃないくて、実質、具体的に実施できるように対応していただきたいというのが、私75歳だからね、もう。後期高齢者だから、明日は我が身です。

ひとつよろしくお願ひしたい。以上です。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。事務局、何かございますか。

○事務局（篠原課長補佐） まず、社会的弱者と言われる方への返信の部分ですね、この辺はですね、市全体としてもそうだと思いますけども、合理的配慮というものをですね、進めるようにしていきたいと思えます。

それと公共交通の部分ですね、本当に悩ましい問題ではございますけども、今回はですね、基本構想という大まかな部分でございますけども、来年度以降ですね、基本計画というものを策定してまいりますので、その中でですね、なるべく具体、実現性の高い内容で計画をしていきたいというふうに考えてございます。以上です。

ウ まちづくりカフェの開催結果について

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ほかに何かご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に移りたいと思えます。では、次に（3）まちづくりカフェの開催結果について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、それでは、まちづくりカフェの開催結果について、ご

説明いたします。資料につきましては、資料の3でございます。

まちづくりカフェは、先ほどご説明した市民ワークショップは、無作為抽出で参加者を募集したところでございますけれども、そちらとは趣旨を分けまして、職域や階層等による市民の意見を把握するというを目的に開催をいたしました。

参加者の募集に当たりましては、市内に今230の市民活動団体がございますけれども、そちらを始めとしまして、子育てサークルや市の商工会、農業後継者クラブに案内文を送付したことに加えまして、常磐大学及び茨城女子短期大学さんの方にもですね、募集チラシを配布してございます。

参加者数やテーマ、開催日時につきましては、記載のとおりということでございますけれども、テーマにつきましては、本日の最後にもご説明いたしますけれども、基本構想ですね、そちらの施策の大綱に基づきまして、①生活、②福祉、③文化・教育、④産業の四つのテーマを設定して開催をいたしました。

開催日時及び場所につきましては、7月31日の午前と午後をふれあいセンターよしで行いまして、8月7日の午前と午後をふれあいセンターよこぼりで開催いたしました。

各テーマの参加者の合計では63人ということになってございまして、所属団体につきましては、表の右側の記載のとおりでございます。なおですね、複数のテーマに参加した方もいらっしゃるのので、人数につきましては、延べ人数ということになってございます。

参加した63人の男女比は、ほぼ半々という割合でございます。先ほどですね、鴨志田委員からもお話がありまして、各団体さんに声をかけますと、女性の方も半々という今回の結果になりましたけれども、女性の方もたくさん出席していただいているという内容でございます。

次の2ページをお願いいたします。年代別でございます。10代から80代ということで、幅広い年齢層の方に参加していただいております。特に10代では、母親と一緒に小学生と中学生に参加をしていただいております。また、大学生、短大生にも参加をしていただいております。さらには、視覚や聴覚に障がいを持つ当事者の方にも、参加をしていただきました。

次にまちづくりカフェの内容でございますけれども、まちづくりカフェは、通常の会議とは異なりまして、飲み物を飲みながら、お菓子を食べながら、カフェにいるようなゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、参加者同士があらかじめ設定されたテーマに沿ってですね、普段思っていることなどを、自由に意見交換しましょうというものでございます。

話し合いの方法としましては、「ワールドカフェ」という手法を用いて行いました。5人程度のグループを4グループ作りまして、始めに最初に座ったテーブルで話し合いを行います。次に1人はホストとしてテーブルに残りまして、ほかの4人が他のテーブルに行って、これを旅をすると言いますけれども、このテーブルで意見を出し合って、その後、元々のご自身がいた最初のテーブルに戻って、旅先で出た話、アイデアを基に意見交換をしていくということでございます。それを行った上でですね、最後に、全体セッションということで、参加者が一人ずつ感想を述べていくという流れで行ってござい

ます。

このまちづくりカフェでは、参加者が自由に意見を出すということでございまして、各テーブル上に模造紙を置いて、そこに話し合いのメモをしていただきました。全体セッションでの参加者からの感想を、今後の総合計画の作成や施策に活かそうというものでございます。

参加者からは、様々な意見や感想を頂いたところでございますけども、それらをテーマごと、分野ごとにまとめたものが、資料3の別紙ということで、ちょっとボリュームが多いんですけども、12ページの別紙ということになってございます。

主な内容について、全体セッションでの参加者の感想を中心にご説明いたします。まず、テーマ1の生活、1ページでございます。(1) コミュニティの分野では、「地域の人が、毎日、会話を楽しみながら生活できる地域が良い」「お祭りなどを一つの交流の場にすると、人と人とのつながりができる」など、地域コミュニティの活性化を望む意見ですとか、次の2ページにまいりまして、(6) 環境の分野でございます。「ゴミや不法投棄が多い。各個人が小さいことから気を付けて、きれいな、住みよいまちづくりを心掛ければよい」「身近なところからゴミを減らして、花の一杯あるまちにしたい」など、良好な生活環境を望む意見が多くございました。

続きまして、4ページでございます。こちらはテーマ2の福祉となつてございまして、(1) 地域福祉・交流の分野では、「一人暮らしの高齢者に学校に来てもらい、子どもたちにミシンなどを教えてもらいたい」「健常者、障がい者、高齢者が集まり、話をする場を作ればよい」などですね、交流といったキーワードを基に生きがいつくりや相互理解を望む意見がございました。

次の5ページの(3) 障がい者の分野でございますが、「障がい者に対する態度について、みんなで考えなければならないと思う」「障がい者の差別問題について、市民に理解してもらいたい」など、障がい者への理解を望む意見が多くありました。

続きまして、7ページでございます。テーマ3文化・教育でございます。こちらの(3) 地域・団体との連携の分野の意見が最も多くございました。「茶道部として授業に出張すればよい」「小中学校で茶道などの日本文化を教える時間があればよい」、次の8ページに行きまして、「リタイヤした人たちが社会で勉強してきたことを子どもたちに教える場があるとよい」、そういった地域や市民活動団体などと連携した教育を望む意見がございました。

最後です。10ページでございます。テーマ4の産業でございます。(1) 農業の分野でございますが、「消費者と交流できるような農業体験施設があればよい」「小中学生に体験させたり、話し合いや意見を述べる場を設ければ、興味を持ってもらえる」など、体験をキーワードに、農業後継者の育成を図りたいとする意見ですとか、また、11ページの(4) 観光・特産品の分野では、「七運物語フェアで、七運野菜鍋のようなものを考えて売る」「商工会青年部と農業後継者クラブが連携して、那珂市をPRするようなものができればよい」など、観光資源の発掘や新たなPR活動につながる意見が多くありました。

以上がまちづくりカフェの開催結果となります。模造紙上のメモや参加者の感想の中には、具体的な意見もございましたので、今後の計画策定作業を進めていく上で、大変

貴重なご意見を頂いたと考えてございます。

またですね、まちづくりカフェのもう一つの狙いとしましては、様々な分野で活動する方々がほかの参加者や団体等の方々と意見を交換するという、いわば異文化コミュニケーションを図ることによりまして、新たな発見や見識の発掘、日ごろの活動を見直すきっかけになればということも期待していたところでございますけども、参加された方からですね、とても楽しかったという感想を頂き、開催後の相乗効果としましては、これまで全くかわりがなかった団体同士が今後交流を図っていきましようという話も、具体的に進んでいるということでございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。先ほどのアンケートとワークショップは無作為抽出ですので、どちらかと言うと市民の皆様の平均的な意見ということになりますが、今回、様々な団体の方々に参加していただいたので、かなり政治とか、若しくは行政に比較的関心が高い方々のご意見ということになるかと思えます。そうするとやはり、男女比がほぼ同等になるという形で、女性の方の関心も高いのかなというのが伺える結果かと思えます。それでは、何かご質問はございますでしょうか。

はい、鴨志田委員お願いいいたします。

○鴨志田委員 質問ではないんですけども。先ほど、「たつつあい」の話が中村副会長さんから出ましたよね。その時に、額田の「たつつあい」というお話が出ました。「たつつあい」の中には、七運汁というのが出てくるんですね、物語の中に。それで、その七運汁をいろいろなところで開発って言うんですか、そういうことでやっている、私は一つの団体に入っているんですけども、那珂つるしびなの会なんですけれども。那珂つるしびなの会では、七運野菜びなとか、七運野菜クッキーとか、マドレーヌとかっていうことで、「たつつあい」物語から発生した、この七運汁、七運物語ということで作っておりますので、こういうのが皆さんの中に広まればいいなと私は思っています。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。11ページに七運物語が少し書いてございますが、先ほど中村副会長がおっしゃったとおり、有るものをどう活かすかという視点はどうしても必要でございますので、やはりこういった既に那珂市にある潜在的な資源みたいなものをいかに掘り起こして行って、それをまちづくりに活かしていくかということは、今後是非、計画の中になんらかの形で盛り込めたらなというふうに思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか、何かご質問。はい、浅川副会長お願いいいたします。

○浅川副会長 12の2番なんですけども、通学路の安全ということなんですけども。前は震災が起きた時は、防犯灯は3か所に1か所くらいしか付けなかったんですよ。それを行政の方に言いましたら、電気料がちよっと無いからということで、所々は付いてたんですけども、今は、このごろは付いているような感じですけども。

それ以外にも通学路。特に中学生が自転車で通う歩道の整備はしてあるんですけども、草刈りが正直。今年から、私も仕事の関係であれなんですけども、前は道路いっぱい、U字溝の脇まで、県とか市の脇まで歩道の草刈りをしてたんですけども、予算の関係で両サイド30センチくらい残されてしまって、草ぼうぼうの状態子どもたちが通学しているというのは、なかなか厳しいものがあるのかなという感じがするんですね。

それは逆に、地元の草刈りの出るのがありますから、そういうのもできれば、通学路の方も重点的にやらないと。中学生、特に夜とか、本当にすれ違うのに草の脇を通過すれ違うと。また、散歩している人もいますし、なかなか危険な状態だなと感じるんですけども。特に那珂一中学区、自分の近所ですから、そう感じるのかも知れませんが、そういうのが那珂市内は多いのかなと。行政がやる仕事で草刈りなんですけども、予算の関係で、今は草刈りはするけども、両サイドは残されちゃうと。そのような返答を県の方にお電話しましたら、言われたものですから。そういうのは、逆に市の方で、行政の方でできないのか。よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。草刈りの部分でございますけども、本来、市がやるべき内容かと思ひます。それをですね、現在、地元の自治会であったりとか、そういった方のご協力を頂きながらですね、進めているという現状かと思ひます。実際ですね、通学路の部分は、危険が伴うというのも当然でございますので、貴重なご意見として承りまして、担当課の方に伝えるとともにですね、そういったことも施策の中に入れられるかどうか検討していきたいと思ひます。以上です。

○議長（砂金会長） よろしいですか。ありがとうございます。ほかにご質問はいかがでしょうか。はい。では、椎名委員お願ひいたします。

○椎名委員 椎名です。実は今日、じつと皆さん方の意見を聞いていたんですが、このアンケートなり、ワークショップなり、あるいはカフェなりのいろいろ膨大な要望なり、意見なりが出ていると思うんですよ。これを事務局の方では、どのように集約して反映していくのか、その辺のところを参考までに伺いたいと思ひます。

○議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。市民意見を把握するということをですね、策定する上でも、計画策定方針の中にも盛り込んでいるところでございまして、今説明したとおりですね、アンケートですとか、ワークショップ、まちづくりカフェなどを行ってまいりました。こういったことをトータル的にですね、基本計画、この後ちょっとご説明するんですけども、その後ですね、全体的な部分としてお答えしたいと思ひますので、また改めてご説明したいと思ひます。

すみません、よろしくお願ひします。

○議長（砂金会長） 改めてということですね。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。はい、住谷委員お願ひいたします。

○住谷委員 消防団関係としてちょっと聞きたいのが、生活の（3）人口減少・少子高齢化の中で、空き家が増えていると。それと若い人がいないと。それで、空き家が増えていると、我々消防団も、若い人の消防団員が、でなくても入ってくる団員が今、欠員の状態で。なおかつ、これから乾燥して地元の消防団に「必ず夜警をなさい」とやっているんですけども、あまりにも空き家が増えて、重点的に回るのが多くて回り切れないうのがあるんですけども。空き家がどんどん、どんどん増えるのを歯止めするようなことは、何か対策は、考えはありますでしょうか。

○議長（砂金会長） はい、事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。空き家対策ということかと思

います。空き家が出るということは、ほかに住む人がいなくなるということだと思いませんけども、今後、人口減少が進んでいく上です、重要な課題かと思っております。

空き家対策につきましては、二面性があるかと思うんですけども、まず一つは今、住谷委員さんがおっしゃった空き家の危険性の部分、対策があるかと思えます。それと、もう一つはですね、空き家の利用ということで、最近ですね、まちづくり委員会さんの方に依頼をしまして、空き家の調査というものを行っていただいたかと思えます。那珂市内で800いくつの空き家があるという調査結果が出ておりますけども、その中で利用できる物と危険な物というものを判別しましてですね、空き家の中でも利用できる物については、改修等も含めて何か利用できないか、移住・定住を進められる物がないかというような検討を進めていくという点がございます。

もう一方のですね、空き家の対策という部分につきましては、危険を伴うということもございますので、取り壊すという方法もあるかとは思いますが、いろんな対策を施して、地元の市民の方に危険がないような形で取り組みを進めたいということで、こちらの基本計画の方にはですね、具体的な施策として、来年度以降になるかとは思いますが、計画として載せていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

- 議長（砂金会長） 空き家については、昨年、国が空き家対策特措法を制定して、今、全国的に空き家の対策を進めていて、私も実は小美玉市と、あと城里町の空き家対策審議会の委員になっているんですけども、例えば空き家の有効活用として、空き家バンクの創設であったりとか、若しくは行政代執行によって危険な建物を行政が取り壊すであったりといった方法が、今かなり挙がってきておりますので、そういったことも、できれば計画の方に盛り込むことができればいいかなというふうに思います。

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。はい、中村副会長お願いいたします。

- 中村副会長 空き家は、非常に今日的な問題だと私は思います。これはね、犯罪性はあるし、火災も発生するし、地域にとってはね、非常にお荷物と言っては失礼だけれども、この対応策、有効利用ももう一つ考えられるね。これをどうするか。これはね、今、福祉でもね、たまり場、そして語らいの場、そういう場をいかに地域としてつくるか、そしてコミュニティを向上するか、これが課題なんですよ。

ですから、そういう意味では、いちいち資金を掛けるということではなくて、そういう空き家対策として、そういう空き家を再利用、有効利用してね、何かできないだろうか、こういうことがね、やっぱり進む、前向きに進む行政の手法である。ただ空き家ありました、まちづくり委員会が調査しました、はい、結果出ました。そうじゃないの。その対策をどうするか。その問題をどうとるかということなんで、ここにね、メスを当ててもらわないと、これは困る。

ですから、ひとつ福祉としてもね、さっき鴨志田さんも言ったけども、「たっつあい」だってみんなで集まるんだよ、そこで楽しく演技をする。それが地域の語らいなんです。これを早くね、地域でつくらなければ、この人口は減少の一途をたどります。減少すれば、まちが無くなるよ。ここは早く、遅いんだからもう、決して早いわけじゃない。遅いくらいなのだから、やっぱり真剣に熟度を持ってね、対応していく必要があるんじ

ゃないかと。これは、是非、答弁は要りませんが、あとで何か、計画の中で出てくるかもしれないけど、是非、ひとつ対応方お願いしたいと思います。以上です。

- 議長（砂金会長） ありがとうございます。例えば、別の市では、空き家になった所を市が買い上げて、それを今度は、自治会、コミュニティにお貸しする、指定管理者にして、そこをコミュニティのたまり場というか、集会所にするような取り組みなんかも、全国では始まってきてはおりますので、恐らくいろんな選択肢なり、方法論があるかと思えますから、できればそういったことがこの計画の中にも位置付けられればと思います。ありがとうございました。

ほかに何かいかがでしょうか。はい、椎名委員お願いいたします。

- 椎名委員 模造紙上のメモの1の12ページですか、資料3の中で。その上段の中の個人情報と壁ということで、民生委員うんぬんということがありますが、これらについてはですね、提言なんですけど、防災課、あるいは市民協働課、そしてまちづくり委員会、民生委員、これらが一体となって取り組んでいかないと、2025年問題、乗り切れないような気がするんですけど、是非、これは防災課、市民協働課一体となって取り組んでいただけのような、そういう仕組みを作ってもらえればありがたいと思っています。

なかなか、正直言って、現在、一人暮らし高齢者、民生委員が見守っているのは那珂市全体で約1千人、9百6十何件ありますので、これも災害時にはなかなか、東日本大震災のようなときには、車で行けない、歩いていかなきゃならないということで、やはりその地域の見守りというのが大切なんです。現在のところは、社会福祉協議会、包括支援センター、民生委員などで見守りはしているわけなんですけど、やはり地域のそういう見守り体制ができていないと、やがて超高齢化社会になってきたときに、大変だなというふうに思っておりますので、これが行政が中心となってそういう取り組みを、是非、計画していただければありがたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

- 議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

- 事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。お話の一つとしてはですね、災害時の要援護者的な意味合いもあるかと思えます。

今、市の方ではですね、対象者の把握、手挙げ方式にはなっておりますけども、希望する方には、個人の支援プランも作成していくということで進んでおりますので、椎名委員さんがおっしゃったとおりですね、民生委員さん、まちづくり委員会、また防災課、市民協働課、福祉課なども含めまして、連携を図ってですね、取り組むべき課題かと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。ありがとうございます。

- 議長（砂金会長） それではお待たせしました。海野委員お願いいたします。

- 海野委員 2ページの環境に関してですけども、現在、なんて言うんですかね、一般の普通ゴミって言うんですかね、そういうものが地区によって変わりますけども、週2回くらいの投棄日がある。ところが、それを持っていかない、残されちゃうと。

原因として、名前が書いてないから、あるいは他の市町村、例えば、ひたちなかとかから来た人は、その前に住んでいた所の投棄袋というか、それを使う。そうすると那珂市内じゃないから、これは持っていかないと。これがね、何回も業者と話し合っても、これは決まりですということで、一切それが処理がされないで止まっちゃう。

こういった問題は、当然、市の処理費用が掛かるので、ゴミ袋を買ってもらえばいい

んですけども、それがそんなに多いわけじゃないと思うんですけども、ある分だけの間だけでも対応できないかどうか、ちょっとその辺も環境課に話しても、らちが明かないっていうのが業者の話なものですから、お願いいたします。

○議長（砂金会長） いかがでしょうか、事務局。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。那珂市のゴミの出し方の部分については、その名前を記載して出すという方法で、ほかの市町村ではそれが無いということも、承知はしているところでございますけども、ちょっと具体的な課題となつてまいりまして、担当課の方にその旨お伝えしまして、調査を進めるようにお話をするとともにですね、この総合計画の中でも、そこまで具体的に書けるかどうか分かりませんが、そのゴミの対策としてですね、ゴミが残らないような形で処理できるように、そういった方法が取れるような内容でですね、盛り込めるかということも検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

（休憩を取ってはどうかとの声があり）

○議長（砂金会長） それでは3時まで休憩を取らせていただきます。

（休憩）

エ 小中学生まちづくり絵画展について

○議長（砂金会長） よろしいでしょうか。それでは再開をさせていただきます。今、まちづくりカフェの開催結果について、質問を承ったところでした。ほかに、まちづくりカフェについて何かございますでしょうか。無ければ、そろそろ時間も迫ってまいりましたので、次に進めさせていただきます。

では、次第の（４）小中学生まちづくり絵画展につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、それでは小中学生まちづくり絵画展につきまして、ご説明をいたします。資料は4でございます。

始めに目的でございますけども、この小中学生まちづくり絵画展は、市民参画の一環としまして、将来の那珂市を担う小中学生から、10年後の那珂市を描いた絵画作品を募集しまして、作品の展示を行うということで、市への郷土愛やまちづくりへの関心を育むことを目的として実施したところでございます。

応募規定としましては、題材を「10年後の那珂市」としまして、色、材料は自由としましたが、子どもたちには単に絵を描いてもらうだけではなくて、画用紙の裏面に作品を描いた理由や作品に対する思いというものを記入してもらうことにしました。

各小中学校の協力の下、夏休みの期間を利用いたしまして、作品を募集しましたところ、全部で67点の応募がございました。学年別に見ますと、小学生は5年生を除いて、各学年とも10点を超える応募がございましたが、中学生につきましては、1点のみの応募ということになっております。

これらの応募作品の中から、入賞作品の選考を行うため、教育長、総合計画策定委員会委員長でございます副市長、それと策定委員会の副委員長2名、それと文化協会の美術部会長の計5名を委員といたします審査会を実施いたしました。審査会につきまして

は、委員の都合に合わせまして、9月26日と27日の2日に分けて開催をしてございます。そこで、厳正かつ慎重な審査の結果、入賞作品としまして、優秀賞が9点、佳作が10点、計19点を決定したところでございます。

2ページ目をご覧ください。裏面でございます。入賞作品数の学年別の内訳は、記載のとおりとなっております。入賞作品の一覧につきましては、次のページからの別紙のとおりとなっております。

いずれの作品も夢と希望にあふれる、すばらしい作品ばかりとなっております。作品を描いた理由、思いを見てみましても、10年後の那珂市を真剣に考えてくれたことが読み取れる内容となっております。これは入賞作品に限ったことではありませんが、子どもたちが家族や学校の先生方と一緒に、那珂市の将来について話し合いながら作品を描いてくれたということは、大変ありがたいことだと感じているところです。

2ページ目に戻りまして、今後の予定でございますけれども、今週の29日の土曜日に、図書館におきまして、入賞者に対する表彰式を開催いたします。

また、本日26日からは、図書館1階の展示コーナーに、全67点の応募作品を展示してございます。11月9日からは、総合センターらぼ一層でも展示を行うことにしてございます。なお、入賞作品につきましては、第2次那珂市総合計画を冊子にした時にですね、中に掲載する予定でございます。

またですね、市民意見の把握ということで取り組んできたものの一つとして、本日、資料をご用意してございませぬけれども、市民意見の把握という策定方針の下ですね、市民アンケート、市民ワークショップ、まちづくりカフェ、ただ今の絵画展とご説明をしまりまして、最近終わった内容としまして、地区別の座談会というものを実施しまして、そちらが全8地区終了いたしました。参加がですね、延べで188人の方にご参加をいただきまして、各地区のまちづくり委員会さんにご協力をいただいて、地区別座談会が終了しているということをご報告させていただきます。

説明につきましては、以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（砂金会長） はい、ありがとうございました。ただ今のご説明につきまして、ご質問ございますでしょうか。はい。では、浅川副会長お願いいたします。

○浅川副会長 感想を。この小中学生のまちづくりの絵画の方なんですけれども、この中でひまわりの絵と、あとナカマロちゃんとか、よく4年生、5年生が那珂市の花がひまわりと知っていて描いたなど。5年生も描いているんですけれども。最後には、今売り出している那珂かぼちゃとか、パパイヤまで載っていて。商工会としては、ある程度、ひまわりフェスティバルとか、そういうのでPRできていて良かったかなと。そういう感想でございます。以上でございます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。1年生もひまわり描いてますね。ほかにはいかがでしょうか。はい。では、椎名委員お願いいたします。

○椎名委員 絵画展が総合センターらぼ一層などでも展示されるということなんです、これは、応募作品、全部展示する予定なんですか。

○事務局 はい。

#### (4) 協議

ア 第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）について

○議長（砂金会長） ほかにいかがでしょうか。それでは、特に無ければ、次に移りたいと思います。続きまして、本日の協議事項になります。（1）第2次那珂市総合計画基本構想の骨子案について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） それでは、第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）につきまして、ご説明いたします。資料につきましては、資料5でございます。

この基本構想（骨子案）につきましては、最終的に冊子として作り上げます総合計画の前半部分となるものでございます。先ほどご説明いたしました「市民アンケート」や「市民ワークショップ」などの結果を踏まえながら、市役所の課長補佐級の職員で構成いたしますワーキングチーム、それと市民の代表の方にもご参加いただいております策定委員会で検討を重ねまして、作成した内容となっております。

全部で資料が21ページにわたりますので、要点のみのご説明とさせていただきます。

まず、1ページをお願いいたします。始めにですね、第1部の序論でございますが、「第1章 計画策定にあたって」「1 計画策定の背景」としまして、（1）自治体を取り巻く環境の変化では、上から4行目の辺りになりますけども、少子高齢化の進行による人口減少問題が国の主要課題と認識される中、地方には「自立した地域づくり」が求められていること。（2）総合計画をめぐる動きでございますけども、1行目になります、地方自治法の改正に伴い、基本構想の策定義務が撤廃され、総合計画の策定に当たっては、自治体独自の創意工夫が期待されているということ。また、下から3行目でございますけども、歳入の大幅な伸びが見込めず、歳出が増大する中で、効率的かつ効果的な行政運営の指針となる総合計画の役割は、これまで以上に重要になるということを記載してございます。

続きまして、2ページでございます。「2 計画策定の趣旨」としまして、（1）計画策定の趣旨では、上から6行目の辺りでございますけども、豊かな自然環境や地理的優位性を活かしながら、本市が持つ「住みよさ」の更なる向上を図り、将来にわたって持続可能な地域を目指す計画として、第2次那珂市総合計画を策定するとしています。（2）計画策定の方針では、①市民と行政の協働、②時代の変化に柔軟に対応する、③成果・実行性を重視する、④まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合性を図るという四つの方針に基づきまして、本計画を策定するとしているところでございます。

続きまして、3ページでございます。「第2章 計画の構成と期間」といたしまして、3ページに基本構想、基本計画及び実施計画の説明が記載してございます。次の4ページにまいりまして、計画期間のイメージ図が記載されています。こちらは、前回、第1回の総合開発審議会でお示しいたしました「策定方針」と同じ内容となっておりますので、説明の方は省略させていただきます。

4ページの下にあります「計画構成イメージ」でございますが、こちらは、関連する個別計画などと互いに整合性を図りながら、総合計画に掲げる施策や事業を予算に反映させまして、効率的かつ効果的な行政運営を進めていくということを示してございます。

続きまして、5ページでございます。「第3章 計画の進行管理と行政評価」としまして、「1 行政評価システム」では、第1次総合計画と同様、行政評価システムを活用しまして、本計画の進行管理を行っていくこと。「2 市民アンケート調査」では、調査結

果を行政評価システムで用いる成果指標の基礎とするなど、本計画の進行管理に役立っているということを記載してございます。

続きまして、6ページでございます。「第4章 市の現況と課題」としまして、「1 地勢」では、市の地理的な位置や、土地利用の状況、道路や鉄道の状況、先ほどもちょっと出ましたけども、東洋経済新報社による住みよさランキングの順位などを記載してございます。

続いて、7ページでございます。「2 人口指標」としまして、国勢調査に基づく人口と年齢別人口割合の過去の推移を記載しております。本市におきましては、人口が緩やかに減少傾向にあること、少子高齢化が進んでいることが見て取れるかと思えます。なお、こちらの指標につきましては、確定値の公表後、平成27年の国勢調査の数値を追加する予定でございます。

続きまして8ページから14ページでございます。「3 現況と課題」としまして、各指標から見た現況と課題を整理してございます。それぞれの指標は、各分野の施策と関連してありまして、8ページにあります(1)市民活動団体数は「市民との協働」、(2)上水道普及率と汚水処理人口普及率につきましては「生活基盤整備」、9ページの(3)幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校につきましては「子育て支援」、また、「学校教育」という施策と関連しております。次の10ページにまいりまして、(4)高齢者、それと11ページですね、(5)障がい者(児)は「福祉」の施策となっております。12ページにまいりまして(6)就業人口は「雇用」、(7)経営耕地面積、次の13ページの(8)商業の状況、(9)工業の状況、それと14ページの(10)観光入込客数につきましては「産業」の分野ということで整理してございます。(11)財政力指数につきましては「行政運営」ということで、それぞれが関連付けをしてございます。

続きまして、15ページでございます。ここからがですね、基本構想ということになります。始めに、「1 市の将来像」についてでございますが、この将来像については、ワーキングチームでの検討はもちろんのこと、策定委員会の各委員にも、それぞれ案を出してもらいまして調整したものでございます。その中でですね、最終的に「人と地域が輝く 安心・安全な住みよいまち 那珂」といたしました。人口減少社会の中であってもですね、市民一人ひとりが個性や能力を発揮しながらいきいきと活躍し、人と人とのつながりを感じられる充実した地域コミュニティの中で、安心して安全に暮らすことができる住みよい“那珂市”でありたいという願いを表現した市の将来像となっております。

次に「2 まちづくりの基本理念」についてでございます。ただ今の市の将来像の実現に向けまして、三つの基本理念を設定してございます。

一つ目は、「すべての人が安心して住み続けられるまちを目指します」です。まちづくりの基盤は、何と言っても地域コミュニティでございます。その充実・強化に取り組むとともに、市民はもちろん、市外からの転入者も「住んでいて良かった」「これからも住み続けたい」と思えるように、移住・定住につながる取り組みを進めまして、さらには、市民アンケートの結果でも高い割合で「優先すべき」としておりました防犯・防災対策などを推進することによりまして、すべての人が安心して住み続けられるまちづくりを進めますとしてございます。

二つ目は、「共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します」です。少子高齢化や人口減少が進む中、子育て支援は重要な施策の一つでございます。そのため、地域全体で子育てを支える体制の強化に取り組むとともに、市民アンケートの結果でも高い割合で「優先すべき」としておりました、高齢者や障がい者の医療・福祉環境の充実を図ることにより、共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちづくりを進めますとさせていただきます。

三つ目は、「すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」です。市の将来を担う子どもたちが、確かな学力と豊かな心を身に付けられるよう、学校教育の充実・強化に取り組むとともに、人生をより豊かなものとする生涯学習・生涯スポーツ環境の充実に取り組み、さらには、市民ワークショップでも市の「弱み」として参加者から数多くの意見があった産業や観光の振興を図ることによりまして、すべての人が輝く、賑わいのあるまちづくりを進めますとさせていただきます。

続きまして、16ページです。「第2章 将来人口推計」としまして、本計画の計画期間における将来人口と産業別就業人口の推計を記載してさせていただきます。将来人口につきましては、昨年度策定しました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンを基に推計してございまして、本計画の中間目標年度である平成34年では51,687人、目標年度であります平成39年では50,437人に減少すると見込んでございます。また、産業別就業人口につきましては、過去の国勢調査の増減率を基に推計してございまして、本市においては、特に第1次産業従事者の減少が進むと想定してさせていただきます。

続きまして、17ページでございます。「第3章 土地利用構想」でございます。「1 土地利用の方針」では、本市の市街化区域を「住居系」「複合系」「産業系」の三つの分類にしてさせていただきます。市街化調整区域につきましては、ゾーン分けということで「営農ゾーン」「居住ゾーン」「緑地ゾーン」の三つのゾーンに分けまして、土地利用の方針を示してさせていただきます。

続きまして18ページをご覧ください。18ページの「2 都市ネットワークによる連携」では、道路や公共交通といった都市ネットワークによりまして、周辺都市との連携、市街化区域内の各拠点との連携、そして、市街化区域と集落との連携を図るとしてさせていただきます。

最後に「第4章 施策の大綱」でございます。19ページから21ページでございます。施策の大綱としまして、「1 みんなで進める住みよいまちづくり」「2 安全で快適に暮らせるまちづくり」、20ページにまいりまして「3 やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」「4 未来を担う心と文化を育むまちづくり」「5 活力あふれる交流と賑わいのまちづくり」「6 行財政改革の推進による自立したまちづくり」の六つの施策の大綱を設定してさせていただきます。この六つの施策の大綱が、来年度策定いたします基本計画の章立て、第1章から第6章になりますけれども、それと(1)(2)(3)とそれぞれ施策の大綱の中に記載がございしますが、こちらにつきましては、基本計画の各章に掲げる「施策」となります。

現在、市が展開しているすべての施策を網羅できるように、基本的には、現行の第1次総合計画を踏襲してさせていただきます。「施策の大綱」及び「施策」につきましては、大幅な見直しは行っておりませんが、主な見直し箇所としましては、施策の大綱1の「(1)

地域コミュニティの充実を図る」を「(3) 市民との協働によるまちづくりを推進する」から独立させておりました、こちらは住みよいまちづくりを推し進めるために、このような形にしております。それとですね、施策の大綱1に「(2) 誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを推進する」というものを今回、新たに追加しておりますが、これにつきましては、移住・定住やシティプロモーションに関する事業など地方創生に関連する事業というものを位置付けるために加えてございます。それと施策の大綱2の「(7) 自然環境を活かした機能的な都市づくりを推進する」につきましては、区域指定制度というものです、導入する予定がございます。これらを踏まえまして、新たに追加したものとなっております。

またですね、15ページのところで説明いたしました「まちづくりの基本理念」との関連性でございますけれども、施策の大綱の「1 みんなで進める住みよいまちづくり」と「2 安全で快適に暮らせるまちづくり」がですね、15ページの基本理念の「①すべての人が安心して住み続けられるまちを目指します」と関連してございます。施策の大綱の「3 やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」、20ページになりますけれども。それがですね、15ページに戻りまして「②共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します」に関連しております。20ページの「4 未来を担う心と文化を育むまちづくり」、それと21ページの「5 活力あふれる交流と賑わいのまちづくり」につきましては、15ページの基本理念の「③すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」ということに関連して、つながりを持った内容となっております。以上がですね、基本構想（骨子案）の説明でございます。

それと先ほど椎名委員からご質問があった内容でございますけれども、市民アンケート、市民ワークショップなどの意見については、基本構想のどこに反映されているのかというご質問でございます。ちょっと繰り返しにはなりますけれども、今回の計画策定に当たりましては、市民意見を把握するという事で、市民アンケート調査、市民ワークショップ、まちづくりカフェなど、様々な市民意見を聴く機会を設けてございます。これらは、基本構想の策定と同時並行で進めておりましたので、意見が反映されている箇所もございまして、作成の裏付け根拠となった箇所もございまして。

例えばですね、市の将来像でございますけれども、15ページですね。市の将来像でございますが、この将来像は策定委員会での委員の意見を踏まえて定めたものでございまして、実はですね、策定委員会の委員にも、それぞれ将来像の案を出していただきました。16人の委員から全部で17の案が出てございます。その中でですね、各委員からは、「市民アンケートの結果から安心というキーワードを入れた」「市民アンケートでは約8割の方が住みやすいと回答しているの、それを将来像にしてはどうか」などの提案理由を頂いてございまして、間接的ではありますが、市民アンケートを反映した将来像になっているというところでございます。

次にまちづくりの基本理念でございますけれども、15ページの一つ目の基本理念では「すべての人が安心して住み続けられるまちを目指します」ということでございますけれども、防犯・防災対策などを推進しますとしてございまして、先ほどもご説明しましたとおり、これは市民アンケートの中でですね、質問の三つ目にありましたけれども、市民の皆さんは高い割合で防災・防犯、交通安全の対策を優先すべきという回答がござい

したので、施策を展開する上での裏付け根拠となっているところでございます。

二つ目の基本理念ですね、「共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します」というところでございますが、こちらは市民一人ひとりにあった保健、医療、福祉サービスの充実を図りますとしてございます。こちらでもですね、市民アンケートの質問の三つ目のところで、市民の皆さんから医療、福祉環境を優先すべきと回答がございました。子育てを支える体制の強化に取り組むことにつきましては、市民アンケートの四つ目のところで、市民の皆さんは子育てがしやすく、子どもが健やかに育つまちを望んでおりますので、これらの施策を展開する上での裏付け根拠となっているところでございます。

三つ目の基本理念ですね、「すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」でございませうけども、こちらは市の活力を支える産業や観光の振興を図るとしてございます。これも先ほどご説明しましたとおり、市民ワークショップの意見でございませうけども、「雇用の場が少ない」「特産品がない」「PRが下手」など、弱みとしての意見を多数いただいておりますので、それらの克服に向けた施策を展開する上での裏付け根拠となっているところでございます。

なおですね、まちづくりカフェにつきましては、市民ワークショップよりも、より具体的な意見を頂いてございますので、全体的な将来像、基本理念、基本構想というよりは、どちらかと言いますと、今後作成してまいります基本計画。そちらの中で反映できればと考えてございます。例えばですね、福祉の分野で頂きました「健常者、障がい者、高齢者、みんなが集まり、話をする場所をつくれたら良い」という意見につきましては、施策の大綱の3番目「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」の中ですね、(4)家庭や地域で支えあう福祉環境を整えるのところで。文化・教育の分野で頂きました「小中学校で茶道などの日本文化を教える場所があれば良い」という意見については、施策の大綱の4番目「未来を担う心と文化を育むまちづくり」の(1)ですね、豊かな心を育む学校教育の充実を図る、そういったところでですね、それぞれの事業として何か位置付けることができればいいかなというふうに、今現在考えているところでございます。

よってですね、冒頭でも申し上げましたけども、市民ワークショップ、まちづくりカフェ、アンケート、様々な形でご意見を頂戴しておりますけども、この中に入っているものもあれば、今後策定する基本計画の中でですね、より具体的な内容をもって書き込んでいくということになるかと思えます。以上です。どうぞよろしく申し上げます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ただ今、事務局から第2次那珂市総合計画基本構想（骨子案）について説明がありました。皆様ご承知のとおり、この審議会は市長の諮問に応じて、第2次那珂市総合計画について審議し、答申をすることを役割としております。

先ほどもありましたが、資料の4ページに計画構成のイメージというピラミッド図がございませうけども、我々が今審議しておりますのは、最上位になります基本構想ということになります。先ほど、報告事項の最後、皆様から様々なご意見を頂戴しております。もちろん、頂いたご意見も、答申を作る際の貴重な材料にさせていただきますが、さらに皆様には、是非、大所高所から忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。皆様から頂いた意見を集約して答申（案）を作成し、次回の委員会の場で答申（案）をお示しした

いと思います。ですので、是非、今日お越しの皆様で、まだご発言されていない委員の方々もいらっしゃいますけれども、是非、この答申（案）に盛り込みたいというご意見を賜りたいと思います。

それでは何かご意見ございますでしょうか。それでは、古川委員お願いいたします。

○古川委員 2点お伺いしたいのですけども。今ご説明の中で、基本構想のところなんですけれども、まちづくりの基本理念ということで、三つ挙げられています。そのうちの1番目に、すべての人が安心して住み続けられるまちを目指しますということで、地域コミュニティの重要性を今聞いたような気がするのですが。個人的な感想なんですけども、行政は、この地域コミュニティの重要性を本当に分かってやっているのだろうかと普段から感じているんですね。どちらかと言うと、いろんな方から聞きますが、「丸投げだ、丸投げだ」とみんな言う。本当に行政が中心となって旗を振って、コミュニティの充実・強化を本当に図ろうという意思があるのだろうか、普段から疑問を持っています。基本構想ですから、理想論でもいいと思うんですけども、この後、基本計画、実施計画と落としていくときに、本当に具体的に行政として何をやりますということが入ってくるのだろうか。普段から聞いていると「できない、できない」ということはよく聞くんですが、この辺が本当に具体化できるのだろうかということが心配だということの一つ。

もう一つなんですけど、この基本構想は、先ほどご説明があったアンケートだったり、いろんな部分から市民の意見を聞いて、それを集約して、具体的な施策ではないですけども、それを文章にまとめたということだと思のですが、その中で目新しいところとして、先ほど説明がありましたが、市街化調整区域の中に区域指定制度を導入するとありましたけども、これは市民の方の要望なのでしょうか。そこだけ聞いておきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（砂金会長） では、事務局お願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。まず、1点目の地域コミュニティの部分でございますけれども、まちづくりの基本、市民と協働のまちづくり、市民と行政の協働のまちづくりというものは、那珂市においても一丁目一番地ということで、一番重要な施策という位置付けをしているところでございまして、平成23年ですかね、自治会制度に変更したということになってございます。

先ほどもちょっと触れましたけども、基本理念の1に対応する部分としましては、19ページの施策の大綱の1ですね、「みんなで進める住みよいまちづくり」の中に施策が四つございます。以前のですね、第1次那珂市総合計画では二つの施策ということでございましたけども、そこから二つ増やしたとう内容にしております、一つは地域コミュニティの充実を図るということで、今ご質問があったところでございますけども、こちらにつきましては、市民自治組織、当然、まちづくり委員会、それと自治会の支援などを位置付けるという意味合いのものでございます。二つ目の誰もが住み続けたいという部分につきましては、移住・定住、シティプロモーションの関係の部分、三つ目の市民との協働によるまちづくりを推進するという部分につきましては、市民活動支援センターであったりとか、団体さんからの提案事業であったりとか、そういった活動を支援する体制、それと人材育成を図るということで、今までも取り組んできたことではございますけども、更に中身を細かくしまして、四つの施策をもってですね、みんなで進め

る住みよいまちづくり、地域コミュニティの部分もですね、進めていこうという狙いで  
の施策となつてございます。

市の方でどういふふうを考えているのかということでございますけども、当然この総  
合計画を基本にですね、今現在も総合計画がございまして、その基本計画にのつとつて  
事務事業を進めているところでございますけれども、更にこの辺りを強化してですね、  
今後も取り組んでいかなければならないし、そういう市民と行政が本当に協働していけ  
るような取り組みができるようにということで、施策の大綱として特出しをしたという  
ところでございます。

もう一つの区域指定につきましては、これは市民からのご意見というよりは、どちら  
かと言うと、市の施策としまして、人口減少社会がこれから進んでいく中での市の施策  
というふうに私の方では聞いてございます。よろしいでしょうか。以上でございます。

○議長（砂金会長） はい。では、古川委員お願いいたします。

○古川委員 分かりました。すみません、逆に2点目の方からは、これは市民の要望では  
ないということですね。ここは大事なところなので。

はい、分かりました。1点目の施策の大綱として四つに具体的に分けて、これから取  
り組んでいくという。行政のこれから取り組んでいくという強い意志と申してよろしい  
ですね。先ほど言いましたけど、今やっているとは思えないものですから、強い意志で  
これから行政はここに取り組んでいくんだと、一丁目一番地なんだということで考えて  
よろしいですね。

はい、分かりました。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。で  
は、江尻委員お願いいたします。

○江尻委員 今の質問につながるのですが、19ページの施策の大綱のところ6項目  
あって、それぞれカッコでいくつかあるのですが、これを全部やると。でも、それぞれ  
重みがあるような気がして、市民のアンケートとかがあって、例えば、重点項目みたい  
なものを、これとこれは市民の意見が多いので重点項目としてやりますとか、そういう  
メリハリがどうなのかなというふうに感じました。

○議長（砂金会長） 事務局いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。施策の大綱につきましては、  
先ほどもちょっと申し上げましたけども、今、市が行っております事務事業、施策につ  
きまして、すべてを網羅する形となっております、すべての基礎、那珂市が行ってお  
ります施策のすべての基礎ということになりますので、全体的に総体的に書かれている  
という内容になってございます。

その中でもですね、重要施策につきましては、濃淡を付けてということだと思いたす  
けども、こちらになかなか表現しづらい部分はあるかも知れませんが、例えば、順番を  
変えるであつたりとか、施策の成果指標なんかも、今後、基本計画の中で記載してい  
くこととなりますけども、そういった中で、なるべく濃淡を付けて順位付けみたいな形を  
とつてですね、こちらに書きぶりをできればいいかなというふうには考えているところ  
ではございます。以上です。

○議長（砂金会長） よろしいですか。

○江尻委員 そうすると、今、記載されているカッコの順番というのは、優先の高いところからという意味で書いているのですか。

○事務局（篠原課長補佐） 今の施策の大綱のカッコの順序につきましては、例えば、20ページにあります3の「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」の中の（1）安心して子どもを産んで育てられる環境を整えるといった部分につきましては、先ほどからもお話に出てますけども、人口が減少していく中で移住・定住を進めて、子どもを安心して産み育てられる環境を整えるということからも、これは重要施策であるということで1番目に持ってきている部分ではございます。

ただ、すべてがですね、アンケートないし、ワークショップであったりとか、そういったものを反映できているかということ、そうではないところもあるかも知れませんが、この順番につきましてはですね、見直し等を行っていきたいと思います。

なお、そのカッコは施策の大綱と各施策が書いてありますけども、その施策の中身は具体的にこういったことをしていきますというような書きぶりを記載して、次回の総合開発審議会、年明けを予定しておりますけども、その時には、その辺りもお示しできるのかなというふうに考えております。以上です。

○江尻委員 分かりました。19ページの大きい2の（6）に「利便性の高い交通基盤を整える」とあるのですが、今までのワークショップとか、アンケートの結果とか、委員の意見を聞くと、この（6）は、かなり上位の方に、目立つようにするべきではないかと感じましたものですから。

○議長（砂金会長） はい、ありがとうございます。では、事務局お願いいたします。

○事務局（関根企画部長） 補足してちょっとご説明をさせていただきます。まず、各施策の大綱の中の施策の順番は、特に1番が優先順位だとか、そういった位置付けは無いということで、まずご理解をいただきたい。ただ、施策の大綱の3番については、子育てというのを1番最初に持っていきたいということで、順番を入れ替えたということでございますので、基本的には、これによって優先順位が決まっているということではありません。

それと併せてですね、施策についてはこの後、それぞれの施策ごとに基本事業というものが位置付けられます。その中で、基本事業の中でどういう事業を展開していくのかということで、それぞれ施策の優先度、どういった事業を盛り込んでいくのかということによって濃淡が出てくるというか、優先順位が決まってくる。どれを重点的にやっていくのかというのが位置付けられるということになるかと思っておりますので、基本計画の段階になりますと、そこに各種の事業、基本事業が位置付けされますと、そのようにして明らかにしていくと、それが皆さんから頂いたアンケートとか、そういったものを踏まえた中で、そういう書き方、位置付けをしていくという形になるかと思っております。

○江尻委員 分かりました。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。

○事務局（関根企画部長） もう1点。先ほど古川委員からありました区域指定制度のことに関しての住民の意見ということでございますけども、ワークショップ、それからまちづくりカフェについては、特に意見が無かったということでございます。ただ、先ほど申しあげました先週の金曜日まで地区別懇談会を8地区やっております、これにつ

きましては、かなりの意見が出ました。ということで、この案件について、いわゆる中心部である菅谷地区とそれ以外の地区に関して、いろんなご意見を頂いたと。今日はその意見については、ご報告はしてごさいませんが、ここについては、かなり意見を頂いたということだけお答えをしておきたいというふうに思っています。

ワークショップとまちづくりカフェには、特にはご意見が出た案件はありませんでしたけど、そういった地区別懇談会におきましては、かなりのご意見が出たということでごさいます。以上でごさいます。すみません。補足させていただきます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。では、中村副会長お願いいたします。

○中村副会長 一つは今、質問が出たんですけど。文章で作るとき、総花的になる。だから優先順位、熟度はしっかり定めて、それを住民に知らせて、そして合意形成をしていく。なかなか、そうは言ってもできないことは分かります。しかしながら、この懇談会では、その方向もある程度見極めなければならない。そういう意味で、優先順位と熟度は必要だと思います。

それからもう1点は、基本構想の中で、三つほど挙げられました。そこで、地域福祉の充実、ソーシャルワーク、そういうことを文章では表現できるけど、実態として、希薄なんです。地域の付き合いというのは、そこに考え方を盛り込まないと。ただ文章だけでいっても、これは難しいと私は思う。私は福祉を担当していますが、福祉は苦勞している。ただ文章でこうですよと言われても、その辺をどう具体的に持っていくか、我々も考えなければならないが、もちろん。

もう一つは、大変老婆心で恐縮だけど、2番の共に助け合い、すべての人にやさしいまちづくりを進めましょう。今、10月1日から何をやっていますか。10月1日から12月31日まで赤い羽根だよ。誰もやっていないのではないか。そういう精神的なものが、ここに表れてこなければ。我々は一生懸命やっているのだから。その主体である行政がおろそかにしたのでは、結局、財政はあなたたちに跳ね返ってくるのだから。だから一生懸命ね、こういう時期にはそれなりの形をしてください。

どうですか、幹部の皆さん、赤い羽根をやっていますか。知らないわけではないでしょう。大丈夫ですか。以上です。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。事務局いかがでしょう。

○事務局（関根企画部長） 私の方から。幹部ではありませんけども、承知をしております。募金活動には参加をさせていただきました。ただ意思として、きちっとした形で表すということが大事でしょうし、そういったことで、してないということにつきましては、誠に申し訳ないと言う以外にはありません。

そういうことで市がですね、先ほどのコミュニティの話の中で、市の取り組みについて、非常に委員の方から疑問を呈するようなご意見もございました。地区別懇談会に行っても、自治会、まちづくり委員会の加入の問題とか、そういうものについても、たくさんの意見が出ました。そういった中で市がやはり、ひょっとすると自治会、まちづくり委員会に、先ほどお言葉がありましたけども、丸投げしているんじゃないかなというようなご意見も頂いたところでごさいます。そういった意味では、市とまちづくり委員会、自治会とお互いに当事者として考えを、知恵を絞ってやっていく姿勢と言うんですかね。そういったものをやはり、この総合計画、基本計画の中でも、どういった形で表

していくのかというのが非常に大事だろうし、また、まちづくり委員会、自治会と合わせてですね、市民活動団体との連携とか、そういったものも合わせてネットワークを作りながら、横軸も縦軸も、そういった形で今度の第2次那珂市総合計画の中では、そういったことを位置付けて進めていけないかなというようなことも、考えているところでございますので、重要なお意見を頂きまして本当にありがとうございます。以上でございます。

○議長（砂金会長） 副会長よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、佐藤委員お願いいたします。

○佐藤委員 基本構想の全体の流れからいいますと、言葉尻の問題になってしまうのかなと思うんですけど、1点、見直しと申しますか、ご検討をお願いしたいところがございます。

15ページの下から3行目、それから21ページの大きな4番の「未来を担う心と文化を育むまちづくり」の文章の中の上から6行目に、「学校教育の充実・強化」という言葉がございますが、この「強化」という言葉についてなんです、発展とか、進展とか、振興という言葉に置き換えてはいかがかなと思います。理由というほどのものではありませんが、感想めいたことなんです、市の総合計画の基本構想の文脈として、なじまないんじゃないかと思いましたので、ご検討をお願いします。

○議長（砂金会長） 事務局、いかがでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。ただ今の「強化」という言葉の使い方でございますけども、そういったことも含めた諮問という形になっておりますので、ご意見として頂戴いたしまして、今後検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。はい。それでは、遠藤委員お願いします。

○遠藤委員 この総合計画の策定の仕方として、まず、市民のワークショップ、まちづくりカフェ、今までにないような形でやっていただいて、市民の皆さんが何をどう考えているのかよく分かったなということで、大変いい手法を取られて、ありがたいなと思っております。

そして、この総合計画ですが、今までの流れでいえば、この作り方でよかったんだと思います。しかし、一昨年、総務省からですね、定住自立圏構想が発表になりました、既に水戸市を中心市とした9市町村が定住自立圏に入りました。ですから、これからというのは、この圏域でもって定住促進を図るために、いろいろな分野でお互い連携をし、また、役割分担をしていくということが定められたわけですね。これは茨城県内では、この水戸地域だけですね。ですから、総合計画は、今後10年を見据えた長期にわたる計画なので、この展望においては、今まで那珂市単独での考えでよかったものが、これからは、この水戸近隣を含めた定住自立圏構想の中における総合計画の策定というものを想定していかなくてはならないと考えています。

那珂市以外の8市町村が、定住自立圏構想の発表後、総合計画をいつどこが早く策定するのか分かりませんが、恐らく那珂市が早い方になるのかなと思っておりますので、那珂市が9市町村の中でも先例を付けるという意味でも、各分野にわたっての連携をうたう必要があると思っておりますが、その基本的な考えをまずお伺いします。

○事務局（関根企画部長） 私の方からお答え申し上げます。ご承知のとおり、9市町村、水戸市を中心とした9市町村で定住自立圏共生ビジョンというものを作っておりまして、第3回までのビジョン懇談会が過ぎまして、いわゆるビジョンがある程度出来上がったということでございます。総務省の方からも、目標指標を付けなさいということを指示されています。要綱が変更になりまして、そういう指示を受けておりまして、今年度中に定住自立圏のビジョンに対して目標数字を作る作業を今後進めるということで、年度内にそれを含めた形で共生ビジョンが出来上がるという形に今現在なっております。

年明けに、2月ごろになるんですけども、第4回を開いて、共生ビジョンが出来るといふことになります。当然、広域行政ということの重要性というのが、ますますご指摘のとおり、必要になってくるということでございますので、6の施策の中の（1）効果的・効率的な行政運営を推進するの中には、全体的な広域行政の推進という基本事業がまず入ってくるだろうと、入れるという形になります。ただ、それぞれの個々に定住自立圏共生ビジョンの中で、七つの分野の八つの施策だったと思いますが、定住自立圏の中で推進するということになってございますので、その中で特に休日夜間診療の充実ですとか、医師確保対策ですとか、成年後見制度の問題、それから公共交通の問題、それから職員の人材育成・研修の問題、それから広域観光の問題、それから環境の問題ですね。そういった事業が連携して取り組むということになりますので、基本計画の基本事業の中では、そういった視点を踏まえた中で位置付けをして、施策を進めていくというふうな形になるかというふうに考えております。ですので、基本計画の基本事業の中では、そういった視点を踏まえた中で作り上げていくということにしたいというふうに考えてございます。ありがとうございます。

○遠藤委員 分かりました。正しくそういう視点がこれから必要だと思います。総合計画でうたわないと、各個別計画では、総合計画を飛び越えてうんぬんとなかなか立てづらと思いますので、総合計画ではしっかりと連携をうたって、おっしゃったとおり、医療、公共交通、市民アンケートにも出ているように、ここが非常にニーズが高いし、不満も多いという部分ですから。

現在の第1次総合計画を見ても、そういったものがうたわれていないですよ。きちんとした連携を取っていくという部分が。だからというわけではないですが、それがそのまま個別計画に落とし込まれて、連携がどうしても働かない施策になっていってしまうんですね。やっぱり上位計画は大事です。ですから上位計画でしっかりとうたった上で、個別計画に落とし込んで行って、各施策に反映させていくという流れを取るには、やはり、総合計画でしっかりとうたうということが大事だと思っております。

申し上げた公共交通、医療、産業を含め、あと防災なんかも、これから各市町村の連携が非常に必要だと思いますので、そういったところの視点を入れた形での組み込みというものを、是非、お願いしたいと思います。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

はい、海野委員お願いします。

○海野委員 施策の大綱の中の2番目。2番の9番、効率的に生活排水を処理するという項目が記載されていますけども。8ページですかね、現況と課題の中で、上水道普及率と汚水処理人口普及率の推移で言うと、公共下水道、あるいは集落排水、合併浄化槽、

全部ひっくるめても、平成27年度は79.3で、前からの推移を見ても、非常に普及率が遅いというか、これは自治体側の費用負担が大きいもんですから、なかなか難しいのでしょうか。こういったものが置き去りにされたまま、今度の自立圏構想の中で、こういったものが残されないか心配なものですから、今後、こういった問題への費用負担を多少増やすような意向があるのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（砂金会長） はい、事務局お願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） ありがとうございます。上水道普及率と汚水処理人口普及率という現況と課題の部分からの、適正に生活排水を処理するということかと思えます。こちらにつきましては、施策の評価というものをしているところでございまして、成果指標を設定して、施策の進行管理を今現在もしているところでございまして、その中でも、近隣市町村と比較しても、どちらかと言えば低い水準であるという結果になっている施策の一つということになってございます。

そういった意味からもですね、今後、予算も含めて、できるだけこの数字を高めるような施策ということで、そういった内容の基本計画、ないし基本事業の方に記載をしていきたいというふうに感じているところです。以上です。

○議長（砂金会長） よろしいでしょうか、海野委員。

ほかにいかがでしょうか。椎名委員お願いします。

○椎名委員 この人口問題についてなんですが、少子高齢化ということで、ここには、未婚化、晩婚化というようなことがうたってありますけれども、例えば、教育現場で見ましても、私は額田地区に住んでおりますけれども、今から40年前、子どもたちが小学校に入るときは、約70名くらいの子どもがいたのが、いよいよ0歳児が、額田地区では、12、3名までになってしまったんですね。こういう深刻な状況についての少子化対策、具体的にどういうふうに向うのか、その辺のところ、正直言って見たいところなんです。

実は、市長との座談会の中でも、私が自治会長をやっている時に、那珂市の具体的な少子化対策についてのプロジェクトチームなどを作ってやったらどうなんだというようなことを提言したことがあるのですが、どうも少子化対策の具体性が見えてこない気がするんですが、事務局の方で、何かそういうものについてありましたら、お願いしたいと思います。

○議長（砂金会長） では、事務局お願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。少子化対策としまして、市が今、具体的に取り組んでいる一つでございますけれども、地方創生という観点からですね、住宅助成制度というのをこの10月から始めております。転入してきた方には20万円、市内で新たに家を建てた方には10万円ということで、そういった内容の施策を進めております。

それとマル福ですね、お子さんの医療費の補助でございますけれども、これも10月から所得制限、今までオーバーしていた方は対象にならなかったんですけども、その所得制限を撤廃したというような内容で、那珂市で子育てをする上で有効な施策ということで、これ以外にもありますけれども、そういったことで今現在進めているところでございます。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。

○事務局（関根企画部長） 私の方から、全体的な話なので補足をさせていただきます。第2次那珂市総合計画でやはり一番大きな課題となる、第1次那珂市総合計画と大きく違うところは人口減少が進む、少子高齢化が一段と進む中で、地域の持続ある活性化をどういうふうに位置付けをして、計画上盛り込んでいくのかというのが最大の課題になっているのではないかなというふうに思っています。

その中で昨年10月に、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作りまして、その中で人口ビジョンを作って、さらに実施計画として、それぞれ四つの柱を作りまして、いわゆる雇用の問題、子育ての問題、それから地域の活性化の問題、そういった諸々の施策について実施計画を作ってございますので、それを着実に総合計画に位置付けた上で進めていくという施策。それとやはり、市民アンケートとか、そういった中でも子育てとかそういった関連に関しましては、費用負担の問題ですとか、いろんな課題、市民の方の要望が出ていることに対して、どういった形で応えていくのかということ、そういった具体的な施策の位置付けをすることによって、お子さんを、市民の希望出生率があるんですけども、実際にそれに沿った形でお子さんが持ててないという状況もありますので、そういったことを解消していくような観点に立った上での総合計画、基本計画の策定作業をしていく必要があると考えます。そういった意味で、今回の策定の中で、まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施、その整合性というものをうたったということもありますので、そういった中で確実に進めていけるような体制で計画策定を進めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（砂金会長） 大分、お時間が過ぎてまいりましたが、いかがでしょうか。ほかにご質問、若しくはご意見は。

○住谷委員 私の消防と全然関係ありませんが、こういうことを言って失礼かもしれないが、額田幼稚園がなくなる、本米崎小学校がなくなる、この神崎地区もだめなんです。全然、魅力がなくなる。もっと、若くて、これからどんどん、税収を那珂市にあげられる人が住むような方向に持って行ってもらいたいですね。

是非、よろしくをお願いします。申し訳ない。

○議長（砂金会長） ありがとうございます。いかがでしょうか。

では、もし、今日まだ言い足りないというようなご意見がございましたら、是非、事務局宛てにお送りいただければ、それも踏まえて答申案を作成していただけると思います。では、ただ今、様々なご意見が出ましたけども、そういった意見を踏まえまして、適宜、事務局の方で修正を加えて、基本構想を作成するようお願いいたします。

イ その他

○議長（砂金会長） 最後にその他でございますが、委員の皆様から、何かその他ございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○議長（砂金会長） よろしいですか。それでは、以上で本日の協議事項はすべて終了いたしました。事務局に進行をお返しいたします。

## (5) 閉会

○事務局（篠原次長） 会長、ありがとうございました。本日は、長時間にわたりまして、慎重なご審議をいただき、誠にありがとうございます。

なお、今後の予定でございますが、本日、皆様方から頂きましたご意見を基に、基本構想（骨子案）について必要な修正を加えてまいります。またですね、12月の議会におきまして、この基本構想につきましての報告、それから来年の1月にかけて、市民の意見を聞くパブリックコメントを経まして、来年の2月、先ほども出ましたが、第3回目の審議会を開催したいと考えてございます。その際、皆様方には、修正後の基本構想（案）についてご審議いただくとともに、本日、写しでお渡ししています諮問に対する答申（案）についても、ご協議いただく予定としてございます。答申（案）につきましては、来年2月の会議の前には、文書で委員の皆様方に事前に送付をさせていただく場合もございますので、その際は、ご協力の方をよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、平成28年度第2回那珂市総合開発審議会を終了させていただきます。

本日は、大変ありがとうございました。